

魔法の medicine プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 大塚 まり 所属: 東村山市立萩山小学校 記録日: 2021年 2月 21日
キーワード: 心理的な安定、自己肯定感、書きの困難の補助

【対象児の情報】

- 学年 4年生
- 障害名 ADHD, ASD
- 障害と困難の内容
 - ・書くことへの苦手意識が強い。(漢字、作文を書くこと)
 - ・環境の変化や見通しが立たないことへの不安感が強い。
 - ・在籍学級での学習に参加することの難しさから自信がもてない。

【活動目的】

- 当初のねらい
 - ① 気持ちの安定を図り、学校での様々な学習や活動への意欲につなげる。
 - ② 特性に応じた学び方を見つけ、定着を図り、在籍学級での学びや自信につなげる。
- 実施期間 令和2年6月～令和3年2月
- 実施者 大塚 まり
- 実施者と対象児の関係 特別支援教室 巡回指導教員

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

- ・特別支援教室に小学1年10月から通っている。
- ・昨年度は週4時間の指導(小集団指導2時間、個別指導2時間)、今年度は週3時間の指導(小集団1時間、個別指導2時間)を受けている。

学習面

- ・当該学年の学習は理解できるが、書くことが苦手である。特に漢字や作文への苦手意識は強い。
- ・書くことの苦手さは自覚し、「難しい漢字でも読めるけど、漢字が書けない。」「考えを話せるけど、書けない。」と話す。
- ・得意な教科(算数)・好きな教科(図工)では比較的在籍学級での授業に参加できる。それ以外の学習は空き教室で読書・工作をして過ごすことが多い。
- ・関心のある学習内容は、意欲的で発表することもある。苦手な活動になると担任に伝えることなく教室を抜け出し、空き教室で過ごす。
- ・「教科書を読めば勉強は分かる。」と話すことがあれば、「授業に参加できていないから分からない。できない。」と話すこともある。
- ・テストで点数はとれるが、授業への参加やノート・プリント等・宿題・作文等提出が難しい。そのため学期末のあゆみで評価されていない自分を責める。
- ・特別支援教室での小集団活動には落ち着いて学習に向かうことができるようになってきた。
- ・記憶することが得意で、百人一首を覚えることを楽しみ、クラスでの百人一首の活動は意欲的である。
- ・3年生2学期から月2回プログラミング教室に通っている。プログラミングに関心があり、プログラミング教室での活動を通して自信もつき、毎回楽しみに通っている。(現在は月に2回オンラインで行っている。)
- ・タブレットの操作方法を教えるとすぐに覚え、慣れることが早い。
- ・タブレットでキーボードを使った文字入力(ひらがな入力)に時間はかかるが、漢字変換がすぐに行えるため日記を好ん

で書いていた。

・タブレットを活用した時に、「これは私の武器になるかも…」と話していた。

行動面

- ・環境の変化や見通しの立たない活動への不安が強い。(特に運動会や音楽会、遠足や社会科見学等)
- ・教室で授業に参加できていない、提出物が出せないことに対して「クラスの友達に追いつけない。」「どうせ私はダメだから。」と、常に自分を責めている。
- ・2年生までは教室から飛び出すと校庭・図書室・空き教室等様々な場所で過ごしていたが、3年生からは空き教室に居場所ができた。空き教室に行く和在籍学級の学習・活動に戻ることが難しい。
- ・2年生の後半から3年生前半は学校に行きたくないと話していたが、3年生2学期以降は落ち着ける場所ができた。また、特別支援教室での指導時数を増やしたことで、登校への抵抗は減っている。
- ・整理整頓が苦手で、机の周りや空き教室は対象児のものが広がっている。

○活動の具体的内容と対象児の事後の変化



・指導時間 今年度6月から週2回(週1回:小集団+個別 週1回:個別)

1学期(6~7月)指導実施回数 12回

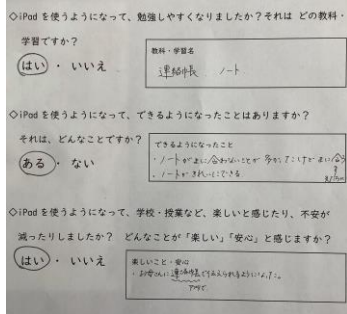
2学期(8~12月)指導実施回数 34回

3学期(1~2月現在)指導実施回数 7回

① 気持ちの安定を図り、学校での様々な学習や活動への意欲につなげる。

ねらい	活動内容	対象児の変化(◆課題)
・自分の気持ちを伝え、他者と気持ちを共有する。	『1週間の振り返り』 『今日の出来事』  「By Talk for School」 1学期 1週間の振り返り ・在籍学級や家庭での出来事やその時の気持ちを伝える(スタンプ中心)。 夏休み以降 学校・家庭での出来事、予定の確認など ・授業内容・持ち物の確認、家庭でのイベント等についてやりとりする。 ・保護者との連絡ツールとして活用。	◇ <u>学校や家庭での出来事を具体的に伝えたり、気持ちをスタンプと言葉で伝えたりすることが増えてきた。</u> ・1年通して教師からのメッセージにスタンプや「うん」「わかった」などひと言で返信することは多いが、嬉しい出来事や疑問に感じたことがあると対象児がメッセージを送ることが増えてきた。 ・言葉で内容を伝えきれない時は画像や動画を添付して送ることも増えた。 ◆ <u>つらい時、不安な時などの活用は難しかった。</u> ・つらい気持ちを伝えることは難しかった。しかし直接話をすることで気持ちが伝えられ考えを整理できていた。
・気持ちを言葉や文章にしたり、自分の気持ちを視覚的に把握したりする。	『一日の振り返り』  「ここち日記」 ・特別支援教室での指導後、活動やその日一日の振り返りを行う。	◇ <u>自分の気持ちが良い状態も良くない状態も受け入れることができ、その理由を考え文章にすることができた。</u> ・特別支援教室での学習だから「良い」という考えがあったが、「良い」だけではない気持ちを受け入れ選択できるようになった。

	<p>・5段階で提示された気持ちの選択及び文章で気持ちを記す。</p> 	<p>・「良い」時も「悪い」時もその理由を考え文章にすることができ、教師と気持ちを共有することもできた。</p> <p>◆対象児一人で一日を振り返ることが難しく、特別支援教室指導日の気持ちのみの記録となった。</p> <p>・自分の状態を一人で考えることは難しい。</p> <p>・具体的な活動・時間での振り返りが分かりやすく、1日単位での振り返りは難しかった。</p>
<p>・得意な活動を他者に紹介し、他者から褒められる経験や達成感を感じられる経験をする。</p>	<p>『T-time(タブレット研究タイム)』</p> <p>・iPadの操作に慣れたり、iPadを使って自分の好きなことを調べたりする時間を設定した。</p> <p>1学期 フリック入力練習タイム 夏休み 都道府県〇×クイズ作り 2学期 星座クイズ作り アプリ紹介動画作り 3学期 玉川上水クイズ作り</p>  <p>「フリック道場」「〇×クイズメーカー」 「日本地図パズル」「88星座図鑑」</p>  <p>「InShot」 ※その他教材「4コマノート」</p> <p><u>クイズ作り</u></p> <p>・自主研究やクラスでの学習(社会・理科)のまとめとしてクイズを作る。</p> <p>・先生や友達にクイズを出す。</p> <p><u>動画作り</u></p> <p>・iPadを使って良かったこと・良かったアプリを紹介する動画を作成。</p>	<p>◇自分で作った作品(クイズ)に自信をもって友達や教師に紹介することができた。友達や教師からの評価に自信をもつことができた。</p> <p>・夏の自主研究でクイズを作り、クラスの友達にクイズを出すと友達がクイズを楽しんでくれた。「また友達にクイズを出したい!」という意欲につながった。</p> <p>・クイズの問題は社会や理科などで学習した内容や今後学習する内容をテーマにし、各教科の予習・復習にもつながった。</p>   <p>▲クイズ作成の様子</p>  <p>▲クイズ問題</p>  <p>▲クイズを出題</p> <p>▲クイズのゴールコメント</p>
<p>・iPadを使うことで自分にどんな変化があったか理解し、学習への意欲や自信につなげる。</p>	<p>『iPadに関するアンケート』</p> <p>・学期に1~2回実施。(アンケート内容)</p> <p>iPadを使って よかったこと・大変だったこと 学習したいこと等</p>	<p>◇(本人の回答より)「iPadを使うようになってノートがきれいにできる。」</p> <p>・「ノートが時間内に書けて、友達に借りなくても済む。」 「(字が汚いことが嫌だが)ノートがきれいにできる。」と話し、ノートアプリが自信や安心につながっている。</p> <p>◇(本人の回答より)「iPadを使えて、楽しい。安心。」</p> <p>・アプリを活用して連絡帳の記録をすることで、「お母さ</p>



▲1年間の振り返りアンケート(一部)


んに(学校のことを)連絡帳で伝えられるようになった。」と話し、安心できる状況につながっている。

- ・2学期初め、「iPad を使ってずるい。」と言われ辛いことがあったが、クラス全体に担任が iPad の活用について丁寧に説明したことで、安心して使うことができています。

◆(本人の回答より)「授業に参加したい。でも iPad があ
るだけではクラスの授業に入れない。」

- ・iPad 活用だけでは、クラスの授業参加は難しかった。

② 特性に応じた学び方を見つけ、定着を図り、在籍学級での学びや自信につなげる。

ねらい	活動内容	対象児の変化
<p>・見通しをもって安心して在籍学級の学習に向かう。</p>	<p>『クラスの学習～予習編～』</p>  <p>「NHK for School」「まなビューア」「日本地図パズル」「88星座図鑑」など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在籍学級で安心して授業に参加できるように、番組視聴やデジタル教科書で内容を事前に予習する。 	<p>◇事前に予習しておくことで、安心して授業に参加できることが増えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科は好きな教科で、家庭で「ふしぎエンドレス」を録画・視聴し、予習を行い安心して授業に参加する様子があった。「NHK for School」で見たい番組を視聴できると分かり、本人も家族も喜んで活用してくれた。 ・理科は、4年生だけでなく5年生の番組も視聴するなど、対象児の関心が広がっている様子も見られる。 <p>◆苦手な教科に関しては、事前に予習や復習をしても、<u>在籍学級での参加は難しい。</u></p>
<p>・書くことへの抵抗を軽減する。</p>	<p>『マイノート作り』</p>  <p>「GoodNotes5」</p> <p>1学期 アプリの操作に慣れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接書き込み、テキストで文章入力、画像添付等の操作練習。 <p>2学期 在籍学級の板書・観察記録用ノートとして活用。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科のノートを作成、板書・観察したもの・ワークシートの画像を添付。 ・ノートにねらいやまとめ等を記入。  <p>▲教科ごとのノート</p>	<p>◇主要教科のノートを作り、板書の記録や観察記録ができるようになってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「GoodNotes5」について「実際のノートを使っているみたい。」と話す。教科ごとに背表紙の色を変えて、教科ごとにノートを使い分け活用していた。 ・理科の観察や実験で、「GoodNotes5」にワークシートを添付し、観察・実験記録や気付きを書くこともあった。 ・授業中にノート作成ができない時に、板書やワークシートの画像は撮影しておき、特別支援教室での学習でノートを作成し復習することが増えた。  <p>▲理科観察記録</p>  <p>▲国語ノート</p> <p>◆参加できなかった授業のノート作りが難しかった。</p>

『毎日の連絡帳』



「PhotoMemes」

1学期

特注連絡帳(プリント)

2学期以降

先生が記入した予定をカメラで撮影し、カレンダーアプリで保存。

◇連絡帳を毎日欠かさず記録できるようになった。



- ・連絡帳に時間割や持ち物など書くことが難しく、対象児専用の連絡帳プリントが用意されていたが、連絡帳を書くこと自体に抵抗を示し時間がかかっていた。
- ・次の日の予定を「PhotoMemes」に保存するようになってからは、毎日対象児本人から次の日の予定を撮影するようになった。また、保護者も次の日の予定や持ち物・連絡等が分かるようになって良かったと話している。

・作文を書くことへの抵抗を軽減する。

『クラスの学習～まとめ編～』



「Simple Mind」



「縦式」



「えにっき」



「Web 検索」

2学期 行事の絵日記

3学期 玉川上水新聞

※その他 離任された先生への手紙

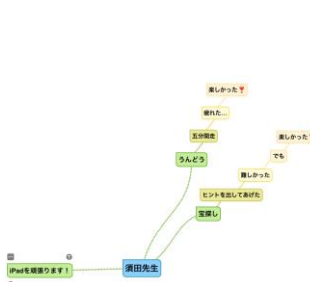
・クラスでの学習や行事のまとめを活用できそうなアプリを見つけ作成。

①「Simple Mind+」で書きたい内容を整理。

②「縦式」「えにっき」を使って原稿用紙やテンプレートに文章を入力。

◇絵日記・作文・新聞を書くことに意欲的に取り組めた。

- ・昨年度は作文を特別支援教室の個別学習1回に3行ずつ程度書き進めていた。(書くことへの抵抗、書く内容を考えることの難しさ)
- ・今年度はアプリを活用することによって、行事のまとめとしての作文や絵日記、学習のまとめとしての新聞作りに対して、「やりたいくない」「面倒だな」という言葉が少なく、取り組み始めると意欲的だった。
- ・書きたい内容を「Simple Mind」で整理し、それをもとに「縦式」を使って原稿用紙に文字入力したり、「えにっき」を使って文字入力したりすることで、初めて一人で作文・手紙・絵日記を書きあげることができた。
- ・自分で書いた文字だと読み返し修正することに抵抗があったが、「縦式」を使うことで文章を読み返し、内容や文字に間違いがないか確認し、対象児自身で間違いに気づき訂正することもできた。



須田先生へ
お元気ですか？わたしは元気です。須田先生と運動しましたね。五分間走をしましたよ。疲れました。でも楽しかったよ。折り紙の宝探しをしましたよ。難しくてもわたしがヒントを出してあげましたよ。須田先生が見つけてくれたから良かったと思うよ。
これからわたしは、ごきごきを頑張りますので須田先生も頑張ってください。
お元気です。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき・エビデンス(具体的数値など)

◇苦手なことに対する抵抗感が軽減してきた。

⇒「やりたくない」から「ちょっとやってみようかな…」「もっとやってみよう」に変化。

苦手な作文等への取り組み状況の変化

時期	作成時間	作成時の様子	作品(作文・絵日記・新聞)
3年2学期 『運動会の作文』	原稿用紙に直接書き込み 15分×4回	・一人で書くことは難しい。 ・書くことがつらく、1回の指導で3行書くのが精一杯だった。	
4年1学期 『離任された先生への手紙』	内容整理 (Simple Mind) 20分 清書 (縦式) 20分	・内容整理は教師と清書は一人で取り組む。 ・「修正が楽」と話し、集中して取り組めた。	
4年2学期 『運動会の絵日記』	内容整理 (Simple Mind) 20~30分 清書 (絵日記) 文章15分 絵10分	・内容整理は一人でできる部分がふえた。 ・清書は一人で取り組む。 ・絵を描くことも苦手だが、iPadで自分を撮影し、抵抗なく描くことができた。	
4年3学期 『玉川上水新聞』	内容整理 (Simple Mind) 15分×2回 記事 (縦式・直接書き込み) 15分×2回 画像検索・添付 10分	・Simple Mindでの内容整理はほぼ一人でできた。 ・記事作成は『縦式』で打ち込む、直接書き込む等、一人で取り組む。 ・新聞作りを進めるにつれて、対象児からアイデア(クイズ出題)が浮かぶこともあった。 ・最後まで楽しく作成できていた。	

◇他者からの評価を素直に受け入れ、本人の自信や学習への意欲の向上につながっている。

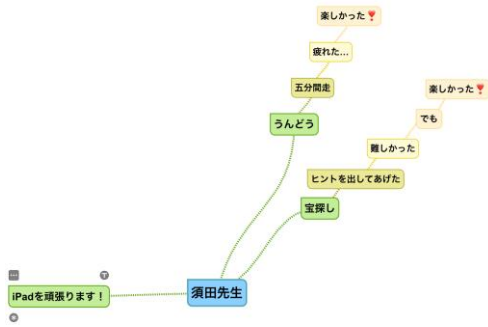
⇒(対象児の言葉より)「(クイズで)先生たちの反応、楽しかった。」

「『すごい!』『よくできてる!』と褒められてうれしい。」「またクイズやりたい!」

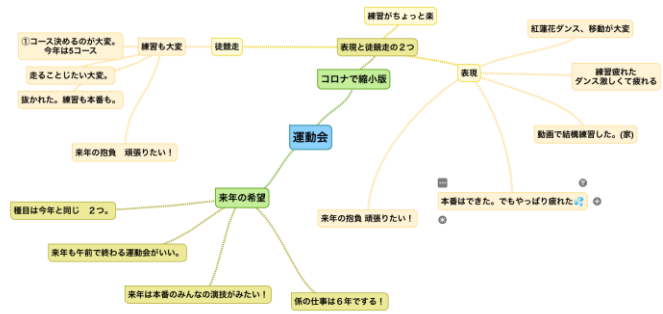
◇考えや気持ちを整理する方法が分かれば、言葉にでき、伝えられ、さらに本人の自信につながった。

⇒対象児の考えや気持ちを自分または教師が言語化したり視覚化したりすることで、安心して学習できた。

Simple Mind で作成したマインドマップの変化



▲6月離任された先生への手紙



▲10月 運動会の絵日記

◇自分に合ったやり方が見つかり、その方法を継続して取り組むことができ、定着することができた。

⇒ (対象児の言葉より) 「連絡帳は断然 iPad で記録する方がいい!」「(連絡帳) 毎日ちゃんと写真撮ってるよ。」

カレンダーアプリ定着状況 ▶

9月	10月	11月	12月
25 / 27日	27 / 27日	19 / 21日	16 / 19日

◆iPad の活用だけでは授業への参加は難しい。しかし、iPad の活用は本人の自信や安心につながっている。調整された環境の中で iPad を使うことで授業への参加が可能になることも考えられる。

⇒ (対象児のアンケートより) 「少人数の学級で iPad を使えば、授業に参加したいと思えるようになりそう。」

アンケートによる保護者・担任から見た本人の変化

連絡帳は成功したと思います。
授業の板書は中に撮れなかったです。
親からもメッセージ送れると良かったかもかもしれません。

・自分が有効な使い方がわからず、活用されなかったところもあるかと思うが、書くことに抵抗があるときに利用することでやる気ができたり、板書を記録して、家庭や、次の時間に見ることができたり、したのが良かった。
・持ち物の管理が苦手なため、いろいろな場所に置きわすれてしまい探すことがあった。

アンケートから iPad の活用により学習への意欲が高まっていることを担任も保護者も感じていることが分かった。iPad の活用により落ち着いて学習に取り組むことに関してはどちらとも言えないとの回答であった。今後も iPad を活用できるとよとの回答があり、今後は学習環境を整え iPad を活用することで対象児の学びや生活に有効な手立てになると考える。

○その他エピソード

◇対象児の頑張りを評価する方法として、3学期から毎月賞状を授与することに。

1月は『玉川上水新聞作り』について賞状をもらい、「賞状、うれしい!!」と言い、賞状を何度も読んでいた。毎月頑張ったことへの賞状を渡す予定。出来上がった作品への評価だけでなく、それまでの過程への努力の評価に満足感を感じている様子だった。



◇特別支援教室の指導後の体育で3年生の時は、苦手なため参加を渋り、着替えに時間がかかったり教室から移動できなかつたりした。4年生になり、スムーズに参加することができている。特別支援教室での安心感に加え、担任が毎日放課後、授業への評価(はなまるを付ける)をし、それを家庭でも評価していることで、活動への意欲につながっているようだ。

毎日の担任からの評価▶